

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと
づく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 706

1部60円

友の会会員は会費に含まれています

発行 東京勤労者医療会代々木病院

2026年
8月号

院長 河邊 博正

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7

TEL 03(3404)7661

http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

核廃絶によって平和への道を切り開く

渋谷区

「特定健診」「後期高齢者
医療健康診査」を受けま
しょう

渋谷区の「特定健診(40
歳~74歳)」「後期高齢者
医療健康診査(75歳以
上)」を受けましょう。
年度内(4月1日~翌年
3月31日)に1回無料で
受診できます。

受診時期に渋谷区から
「健康診断」の受診券が
送付されます。誕生月に
より、受診時期が異なり
ますので、ご確認のうえ
受診忘れのないようご注
意ください。



広島・長崎の原爆投下から81年を迎える

代々木病院
代々木健康友の会
3名
1名

広島・長崎の原爆投下から81年を迎えます。いま、人類は核による破滅の道を歩むのか、それとも核廃絶によって平和への道を切り開くのか、大きな歴史の岐路にあります。

米国によるベネズエラ侵略に続く米国とイスラエルによるイランへの武力攻撃と主権侵害、ロシアによるウクライナ侵略、イスラエルによるガザでの大規模な破壊と殺戮など、核保有国を中心に国連憲章・国際法を蹂躪する無法な振る舞いが相次いでいます。一方で、この危険な流れに立ち向かい、国連憲章に基づく国際紛争の外交的解決と平和、核兵器廃絶の合意の実行を求める努力が、国際政治の舞台においても、市民社会の運動においても大きく広がっています。

こうした情勢のもとで開催される2026年原水禁大会(広島大会)に、代々木病院から3名の職員と代々木健康友の会から1名が参加します。参加にあたって職員3名から抱負を聞きました。

原水禁大会へ

室伏紀弥さん
看護師(3階病棟)

私は東葛看護専門学校出身で原水禁については何度かお話を聞いたことがあり、いつか参加してみたいと思っていました。

集まる参加者との交流を通して、それぞれの平和への思いなども聞き、自分の視野も広がっていくと思っています。



この大会で学んだ事を参加して終わりではなく、原水禁大会に参加できなかった方々にも知ってもらえるよう伝えていきたいと思っています。

松岡 凛さん
理学療法士
(リハビリ室)

今回広島での開催という事で、長崎で学習する中では知り得なかった広島での被爆、歴史について、現地で学べる貴重な機会をいただけたことを嬉しく思います。



今回の原水禁大会では、核兵器や、戦争、被爆者の方々の運動について

現在、被爆者の高齢化が進む中で、私たち若い世代が核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さを継承し、次の世代へ伝えていくことの重要性を感じています。この大会で得た学びや経験を今後の活動や日常生活に生かし、平和について考え続けることを発信できるような人になりたいと考えています。

飯塚正人さん
調理師(栄養課)

アメリカとイランのホルムズ海峡での争いやウクライナとロシアの戦争など、今現在も進行している事柄も感じました。

今回ご指名をして頂き、そういった平和活動への実際の現場の雰囲気や具体的にどういった活動がされているのかを感じてみたいと思っています。



始めに原爆ドームや資料館など普段の日常であ

た。

千駄の萱

サッカーW杯のような平和な日常の裏側で、我が国の在り方が大きく変容しようとしています。驚くべきは、負傷した自衛官の治療に民間病院や医療従事者を動員する準備です。現在、全国の自衛隊病院等の病床数は約2460床に過ぎず、大規模な武力衝突が起されれば到底足りません。そのため、民間医療をシステムに組み込み、治療・回復した兵員を再び戦場へ送り出す「継続能力」の強化を狙っています。▼自衛隊那覇病院の50床を200床に増床するような取り組みの一方で、全国の病院では人口減少を想定した病床削減が進められており、医療従事者も慢性的に不足しています。「平時」であっても、訓練への動員などで通常の医療業務に支障が出る恐れがあります。私たちの命を守るはずの医療が、戦争継続の道具へと変質していく。▼これは医師や看護師が事実上の軍事動員として「戦争国家」づくりを組み込まれることを意味します。有事法制に基づき、医療従事者に業務従事命令が出される可能性も浮上しています。この深刻な事態に、私たちはもっと敏感であるべきではないでしょうか。(て)